

# はじめに

## 概要

ここでは、皆さんが構築しているWebアプリケーションを成功に導くため、セキュリティと法律の知識をお伝えします。

## 本カリキュラムの目標

本カリキュラムの目的は、皆さんが開発中のWebアプリケーションを、インターネット上で安全に、そして信頼性をもって運営していくための「守りの知識」を習得することです。

具体的には、「セキュリティ」と「法律」という、サービス運営に不可欠な二つの領域に焦点を当てます。

プログラミングのコードは一切扱いません。

皆さんは既に、Next.jsとSupabaseという技術スタックを選択し、**Claude Code** を活用してWebアプリケーションの基本的な構造を構築するスキルをお持ちです。このカリキュラムでは、その基盤の上に、ユーザーが安心して使えるサービスを作り立てるための「概念」と「実務的な知識」を上乗せしていきます。

- **プロジェクトにおける本学習の位置づけを理解する**: これから学ぶ内容が、皆さんのアプリケーション開発プロジェクト全体の中で、どのような重要性を持つのかを把握します
- **AIアシスタントの新たな活用法を理解する**: これまで機能開発で活用してきたAIへの指示（プロンプト）スキルを、セキュリティや法律という新しい専門領域でどのように応用していくか、その方法論を学びます

それでは、プロジェクトを成功させるための重要な知識の学習を開始しましょう。

## プロジェクトの全体像とAIアシスタントを学ぼう

# なぜ「守りの知識」から学ぶのか？

Webアプリケーション開発では、新しい機能のアイデアや洗練されたUIデザインに注力する傾向があります。それらはサービスの魅力を高める上で、もちろん非常に重要です。

しかし、ここで一度、視点を変えてみましょう。あなたが新しい店舗をオープンさせるとします。デザイン性に優れた内装、魅力的な品揃え。しかし、もしその店舗の金庫の鍵が誰でも開けられる状態だったり、お客様から預かった貴重品がバックヤードに無造作に置かれていたりしたら、どうでしょうか。

お客様は、そのお店を信頼し、安心して利用することはできません。万が一、盗難事件でも発生すれば、お店の評判は失墜し、事業の継続自体が困難になるでしょう。

Webアプリケーションも、これと全く同じ構造です。ユーザーからお預かりする個人情報や、サービス内で生成されるデータは、店舗で言えば「金庫の中身」や「お客様からの預かり物」に他なりません。これら情報資産を保護するための技術的な仕組みが「セキュリティ」であり、ユーザーに対して「あなたの情報をこのように適切に取り扱います」と約束し、社会的なルールを遵守することが「法律」や「利用規約」の役割です。

これらの「守りの知識」は、建築における「基礎工事」と考えることができます。どれだけ壮麗な建物を建てようとも、その基礎が脆弱であれば、やがては構造全体が危うくなります。一方で、堅牢な基礎を最初に築くことができれば、その上には安心して、創造性に富んだ建築物を自由に建てていくことが可能です。

本カリキュラムで学ぶ内容は、皆さんのサービスを長期的に、そして安定的に成長させるための、最も重要な基盤を構築する作業であるとご理解ください。

## あなたの強力な相棒、AIアシスタント

皆さんの開発プロジェクトにおいて、AIアシスタントである「Claude Code」は、すでに強力なツールとして機能していることと思います。

ここでは、そのAIとの関係性を改めて定義し、これから学習でどのように活用していくかを確認します。AIを「**特定の専門分野に精通した、極めて有能なアシスタント**」として位置づけてください。

可能なアシスタントに業務を依頼する際、「適宜うまく対応してください」というような曖昧な指示では、その能力を最大限に引き出すことはできません。

「A社のB部長宛に、来週水曜日か木曜日の午後で、30分間の打ち合わせをセッティングしてください。議題は、新規プロジェクトに関する件です。この議題に関する参考資料は添付ファイルを参照してください。」

このように、「何を」「どのような条件で」「何を参考にして」実行してほしいのかを具体的に、かつ過不足なく伝えることで、アシスタントは期待通りの、あるいはそれ以上の成果を出します。AIアシスタントへの指示もこれと同様です。

## アシスタントを動かす「言葉」の力（プロンプトの応用）

皆さんは、すでに機能開発の場面で、「このような機能を作りたい」「このエラーの原因は何か」といった形で、プロンプトを駆使してAIアシスタントと対話してきた経験をお持ちのことと推察します。

皆さんが培ってきたそのプロンプトスキルですが、これから扱う「セキュリティ」や「法律」といった分野では、応用的な視点が求められます。

### ① プロンプト(Prompt)の応用

#### セキュリティ・法律分野におけるプロンプトの重要性

これらの分野では、機能開発の時以上に、プロンプトに「正確性」「網羅性」「文脈の明示」が強く求められます。なぜなら、わずかな解釈の違いが、セキュリティ上の欠陥や法的なリスクに直結する可能性があるからです。例えば、「ログイン機能のRLSを実装」という指示よりも、「ユーザーは自分自身の投稿データにのみ読み書きでき、他人のデータは一切閲覧・編集できないようにする。この要件を満たすSupabaseのRLSポリシーを網羅的に生成してほしい」という指示の方が、はるかに安全で正確な結果を得られます。

#### 現時点での理解度

「これまで培ってきたプロンプトスキルを、より専門的で厳密な要求が求められる分野に応用していく」という認識で捉えてください。

本カリキュラムでは、セキュリティポリシーの設定や各種規約の作成といった専門的なタスクにおいて、AIアシスタントの能力を最大限に引き出すための、具体的で実践的な「プロンプトの記述例」を豊富に提示します。

皆さんは、法律の条文や複雑なセキュリティの仕様を直接記述する必要はありません。

その代わりに、この「プロンプト」という思考ツールをこれまで以上に巧みに操り、専門家であるAIを動かすことで、ご自身のアプリケーションに必要な保護措置や規約類を実装していくことになります。

### ⚠️ プロンプトスキルの深化

皆さんが実践してきた「AIに的確な指示を出す能力」は、現代の多くの分野で求められるようになってきている重要なスキルです。本資料は、Webアプリケーションの専門知識を学ぶ場であると同時に、皆さんが持つプロンプトスキルを、より高度で専門的な領域へと深化させる機会でもあります。ここで得られる経験は、今後の様々なプロジェクトにおいても、皆さんの大いなる力となるでしょう。

## まとめ

---

以上で、この章の内容は終了です。以下の点を確認しました。

- **本学習の位置づけ**: プログラミングではなく、サービスの信頼性を担保する「セキュリティ」と「法律」という基盤知識を学ぶことの重要性を理解しました
- **AIアシスタントの活用法**: これまでのプロンプトスキルを応用し、より専門的で正確性が求められるセキュリティ・法律分野でAIを的確に活用していく方法論を確認しました

これで、本カリキュラムの学習方針と、AIアシスタントの活用法について共通の認識を持つことができました。

それでは、次の章では、まず「なぜセキュリティ対策が重要なのか」という根源的な問いについて、「**お店の金庫管理**」といった具体的な例えを用いながら、その必要性を深く理解することから始めます。